

芳賀中学校：夢や希望をはぐくむ学校文化の創造

目指す学校像（どんな学校にしていきたいか）

「心身ともに健康で、高い知性と特性を持ち、よいことを進んでする生徒を育成する。」

目指す児童生徒の具体的な姿

- ◇進んで学習し、ねばり強くやり抜く生徒
- ◇自ら考え、正しく判断できる生徒
- ◇健康な体と、広い心を持つ生徒

子どもを元気にするために、学校全体で取り組むこと

○学級集団の状況を把握し、計画的な指導と援助を積極的に行う。
・Q-Uを年2回実施し、結果を共通の指標として、問題を整理し「人間関係作り推進ランきずな」等を活用した構成的エンカウンターを継続的に実践し、学級生活満足群の多い学級作りをする。
○ボランティア活動を通して、思いやりと奉仕の心を育む芳賀中奉仕団の活動をする。
・地域行事と連携し、のびゆく子どもの集いふれあい文化祭、中学生サンタクロース企画など地域行事と連携したボランティア活動に参加している。また、有価物回収などの収益で、福祉施設へ車椅子の寄付し、施設の方を呼んで贈呈式を行っている。

子どもの意欲を高め、主体的な学びを進めるために、先生一人一人が取り組むこと

○「めあて」と「振り返り」を明確にした授業実践を図る
・めあての設定や提示の仕方、振り返りの内容の充実に向け、互いに授業を見合い、検討する場を設け、授業実践記録集を作成する。
○宿題を通して家庭学習の習慣化を図る。
・教科の特性を生かして「反復練習」や「その日の授業を振り返り」や「事前の学習」の宿題を定期的に出していけるよう計画して、「分かる」「できる」の好循環にする。
・宿題のチェックやミニテストが生徒の励みになり、定期テストで自己の目標を達成できるようにする。
○授業中に生徒同士が関わり合い、考えを深めることができる言語活動を工夫し、自己実現を図る。
・「芳賀中学習のルール」教室に掲示し、よりよい授業が成立できるようにする。

<学校課題の明確化（重点とした理由）>

学校評価の結果から重点課題とした。①は現代教育の喫緊な課題なので継続、②③は本校の実態から重点とした。

<重点>

- ①柱1・重点-2(4) 日常の観察、いじめアンケート等から情報を収集し、報連相体制で対応する支援を必要とする保護者・生徒に対し、関係機関と連携し、指導に当たる
- ②柱2・重点-5(11) 授業で「めあて」と「振り返り」を明確し学習意欲を高めさせる
重点-5(14) 高まった学習意欲から自らの考えをもち、家庭学習の習慣化を身に付けさせる
重点-8(26) 発達段階に位置づけられた教育課程において、自己の生き方を考える時間を確保する
- ③独自 重点-14(36) 生徒が奉仕団の活動で培ったボランティア精神を委員会や学級での活動に進んで生かせるようにする

指針で目指すものの共通理解: 「多様な人と協働しながら、主体的・創造的に活動する子ども」

児童生徒・学校の実態

- ◇全体的には落ち着きがあるが、人間関係がうまく築けない生徒が孤立してしまうことがある。
- ◇授業に真面目に取り組むが、家庭学習の時間が極めて少なく、まったくしない生徒もいる。
- ◇参加希望者が多く活動から漏れてしまう生徒いる。そのため、生徒の奉仕団への参加意識が低い。